

愛称について

1. 愛称について
2. 愛称の活用事例について
3. 愛称の決定方法（案）について

1. 愛称について

経過

新しい熱回収施設等の愛称は、地区連絡会にて計5回協議。



愛称をつけてよい、愛称は不要との意見が同数。

- 広く募集した方がいいのではないか。
- 子供に愛称をつけてもらうのがいいのでは。
- 周辺施設を含めたエリアの愛称は。

愛称の目的：利用者が親しみを感じ、末永く愛される、呼びやすい名前を愛称として、パンフレットや施設で開催するイベントや環境学習等のPRに利用する。

名称：「町田市バイオエネルギーセンター」

名称の活用：条例で定める名称。公文書等に用いる。

2. 愛称の活用事例について

愛称の活用事例 …HPやパンフレット、広報誌に掲載

【他市事例】

◆「バリクリーン」今治市：名称は「今治市クリーンセンター」

広く市民の方々に知っていただくとともに、親しみをもって頂くために小学生を対象に名前を募集

◆「エコポッポ」湖周行政事務組合：名称は「諏訪湖周クリーンセンター」

小さいころわくわくした力強く煙を吐いて元気よく走る汽車を思い出した。昔は黒い煙だったが、今はその力を発電に利用すること。子供たちの夢を乗せてシュツシュポッポと走り続けていた汽車のようになってほしいという、意味がある。

3. 愛称の決定方法（案）について

愛称の決定方法（案）

様々な世代が参加できるプロセスとし、地区連絡会で意見交換を行いながら決定していく。

ステップ1. 愛称（案）の募集

全市公立小学校42校 4年生（環境学習履修学年）を対象に、愛称案を募集。

ステップ2. 最終候補案の選定

検討委員会・推進本部メンバーで最終候補3～5案に絞る。

ステップ3. 決定

市内在住・在学在勤者の投票により決定。

（各市民センターに投票箱設置、メールにて投票可能とする。）

◆愛称に込めたいイメージ

- 環境学習や防災機能等の拠点であること
- 周辺の自然や生活環境・景観等に配慮した施設であること